

# 診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第3号/平成25年3月

URL <http://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-6814

FAX 025-378-6835



## 一般社団法人 新潟県中小企業診断士協会 会長 武田浩昭

当協会が法人化され、約1年が経ちますが、日頃より、当協会の運営にご協力していただき誠にありがとうございます。昨年度は、全会員が各委員会に所属してもらい、委員会活動が積極的に行われてきました。そのため、事業開発委員会では新たなビジネス創出にチャレンジし、研修委員会では企業訪問してのケーススタディを実施し、そして、広報委員会では「ホームページのリニューアル」を行っていただくなど、本当に感謝しております。今年度も引き続き活発な活動をよろしくをお願いします。

さて、今年度は中小企業金融円滑化法終了に際し、特に自ら経営改善計画策定等ができない多数の中小企業について、きめ細かな経営支援を行うことが必要な状況です。そのため、国では昨年6月に「中小企業経営力強化支援法」を成立させ、経営革新等支援機関（詳細は中小企業庁のHP参照）の充実を図ってきました。また、中小企業再生支援協議会と一体となった資金繰り支援などを実施することにより、中小企業の経営改善や事業再生に対する各種支援策を行っていく方針のようです。経営革新等支援機関ですが、現在5,481機関(2月1日現在)が税理士、金融機関、商工

会を中心に認定されており、新潟県内では登録件数は643件です。残念ながら、税理士等で登録している会員は3名いますが、中小企業診断士としての登録はされておりません。しかし、新潟県中小企業再生支援協議会では、当協会の多くの中小企業診断士の活用を検討しておりますので、ぜひ会員の方々は積極的に「経営革新等支援機関」に登録していただきたいと考えています。

さて、こうした国の新たな中小企業支援の改革の中で、我々診断士は他士業や専門家等多くの先生方と競争・共存・共生していかなければなりません。それとともに、国では複雑で高度化した中小企業の経営課題に対し、金融機関を含めた各士業等と連携し、課題解決にあたるスキームも検討しているようです。我々診断士は、総合的なコーディネータとして活躍の場を広げるチャンスですので、会員各位におかれましては、国や中小企業から求められている専門性をブラッシュアップしていただき、さらに、自ら研鑽を積むとともに、当協会での企業再生支援研究会にも積極的な参加をお願いいたします。

話は変わりますが、最近では独立する経営コンサルタントなど様々な中小企業の経営支援をする人が増えつつあるため、我々診断士もUSP（あなただけの独自の価値）がなければ、生き残ることが厳しい状況になってきています。反面、10年前と比較すると診断士のブランド力は向上し、信頼度は高くなっています。

現在の状況は、見方によって我々診断士にとってはピンチかもしれませんが、私はビジネスチャンスは広がっていると見ています。

最後になりましたが、今後とも会員の一人ひとりが活躍していただくことを祈念するとともに、新潟県中小企業診断士協会の発展に向けての益々のご協力をよろしくお願いいたします。

## 協会の活動報告

### 1年目の新組織



**専務理事 田中裕輔**

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会となって1年が経とうとしています。多くの会員の皆様のご尽力、ご支援によって成り立っていることを強く感じております。会員の皆様には、日頃より当協会活動にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

旧組織（中小企業診断協会新潟県支部）との一番大きな違いは、やはり委員会制度を設けたことでしょうか。実際に委員として活動するかしないかは任意であるものの、会員は必ずいずれかの委員会に所属する、としたものです。協会への帰属意識が少しでも高まってもらえれば、との意図があったのでした。

全会員が所属するとは言っても、どの位の会員の方々が実際に活動をして頂けるのか、当初は全く見えませんでした。多いのか少ないのか、委員会は適切に機能するのか。

結果的には、各委員会活動によって新しい取り組みが生まれていきました。今まで委員会に入っていなかった方も多く参加しましたので、様々なアイデアが出たのでしょうか。ただ、それが具体的な形となるには大変な苦労がありました。各委員会とも今年度は生みの苦しみを実感した一年であったように思います。

また、一方で課題も浮き彫りになりました。委

員会ごとに、実際に活動をする人員数に偏りが見られたことです。実働人員数の少ない委員会では、委員長が奔走することになり、活動領域を広げづらくなっていました。

次年度も同じメンバーで委員会活動が行われます。今年度やり残したことを、引き続き次年度に取り組む部分もあります。忙しい日常の仕事の中で、さらに委員会活動へ参加することは難しい会員の方々もいらっしゃると思いますが、少しでもご尽力賜ればと、お願い申し上げます。

今年度を踏まえ次のステップへ、会員の皆様と共に進んで行きたいと思っております。

### 平成25年の新春講演会ならびに新年会を開催しました

**総務委員会 新年会担当 斎藤 昭**

平成25年1月19日(土)15時より、万代シルバーホテルにて新春講演会ならびに新年会が開催されました。当協会が一般社団法人として迎える最初の新春講演会ならびに新年会ということもあり、例年の進行パターンだけではなく、協会員の皆様に興味をもっていただけるような内容を企画しよう、という総務委員会での意見をもとに、新年会チームで検討を加えた内容で開催をさせていただきました。

最初に武田浩昭会長から新年のご挨拶をいただいた後、講演会に入りましたが、まず第一部として日本銀行新潟支店長の照内太郎様にご講演をお願いいたしました。「新潟県経済:2013年の展望」という演題をもとに、2012年の振り返りと2013年の展望、中小企業経営と地域金融機関、そして日本銀行の金融政策という内容で、国際的な動向や国内事情の考察などを各種データも示していただきながらのお話となり、協会員にも大変勉強になるものとなりました。

続いて第二部では(株)エフエムラジオ新潟の中野幹社長に、「イベントの集客に見られる新潟県の

県民性」という演題でご講演をいただきました。最初に会社のご説明をいただいたのち、新潟県の県民性について、各種のイベントを開催した際の分析結果などをもとにお話しいただきましたが、県民の行動パターンや新潟でイベントを開催する際の成功要因等についての分析結果からすると、イベント成功の秘訣として、駐車場の確保と整理スタッフが重要であること、来場者の興味を引く美味しい食べ物があること、抽選会はハズレなしが大切であること、などがポイントとして上げられるとの内容でした。

その後今回初めての試みとして、我々が新潟の活性化を考える上で参考になれば、という思いのもと、パネルディスカッションが行なわれました。



**パネルディスカッションの様子**

パネルディスカッションでは、「新潟のブランド発信力」というテーマで意見交換を行ないましたが、パネラーには講演会に引き続き中野幹社長、(株)パートナーズプロジェクト代表取締役である高野裕会員、そして武田浩昭会長にあたっていただき、コーディネーターとしては田中裕輔専務理事にあたっていただきました。初めての試みでもあり、手探りの中行なわれましたが、まず、新潟のブランドの認識についてご意見をいただいた後、ブランドの発信方法についての考え方も披露していただきました。新潟のブランドとしては雪や酒、米の他にも、豪農の館や果物、刃物等もあるのではないかということ、そしてその情報発信には選

択と集中の考え方を持つこと、テクニックに走らず情熱を持って外部へ伝えていくことなどが重要である、などの意見が交わされました。初めてのチャレンジの中、コーディネーターの進行もスムーズで、予定通りに終了いたしました。少し時間が短すぎたのではないかと、という反省点も感じております。

講演会の後は例年通り新年会を開催いたしました。ご講演の演者の方々もご参加いただきましたので、さらに積極的な意見交換などもでき、会員の皆様との親睦も深められたのではないかと考えております。

慣れない中、不手際等もありましたが、今後の運営にこの経験を活かしてまいりますので、皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。

## 委員会活動報告

### 総務委員会



総務委員長 山田まり子

昨年4月2日の新組織設立から、もうすぐ1年になります。この間、会員のみなさまには協会行事へのご参加ご協力をいただき、感謝申し上げます。

総務委員会では昨年の総会後に委員会を開催し、活動内容を出席者全員で話し合ったあと、実際の活動は行事ごとにチーム制で行うことに決めました。

最初の行事は8月の更新研修後の交流会です。例年どおりビアガーデンがいいのか、ビアガーデンでは騒音などで「交流」ができないので室内の開催がいいのではないかといった意見交換がありました。これに関しては、時期が差し迫っていたこともあり次年度以降の課題とし、ビアガーデンでの開催となりました。

次は新春講演会と新年会ですが、「1年の計は元旦にあり」という考えで、中小企業診断士らしいものにしようと意見がまとまりました。中小企業診断士にとっては何よりも「勉強」が大事という視点から、例年の日銀新潟支店長による講演の他に、テーマを設定して民間企業の社長による講演とパネルディスカッションという構成に決まりました。

そして、今は5月の総会に向け、間違いのない

ように、また、会員のみなさまに協会活動がきちんと伝わるよう準備を進めています。

他に、年間で10回開催された理事会について、委員会メンバーが議事録作成を行いました。

来年度も会員のみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 研修委員会



研修委員長 小松俊樹

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会に改組となってから最初の年度が終了するにあたり、今期の活動を振り返ります。

当初の事業計画において、今年度の内容を以下のようにご説明しました。

#### <活動方針>

- 会員個々の専門能力の涵養に努める。
- 理論と実践、いずれにも配慮した内容とする。
- 企業内診断士の実務従事機会の提供。

#### <事業計画>

- 理論政策更新研修
- 企業ケーススタディ
- 研究会成果報告会

これを受けて実際に行った事業は以下のようです。

- 5/20 ほんぽーと相談員研修会  
(講師 大滝勇一氏 5名参加 講義形式)
- 8/18 理論政策更新研修
- 11/24 企業ケーススタディ



(対象企業 株式会社フーゲツ 6名参加  
訪問－工場見学－社長説明－(場所を移して) 課題抽出－課題解決案のディスカッション ※業務実績1点)

なお、この後、企業ケーススタディの報告会、研究会成果報告会を予定しています。

3/2、新年度事業計画の検討のために委員会を開催しました。ここでは、今年度の総括を行うとともに、企業内診断士の実務従事機会の提供をさらに図ること、新たにセミナーを企画することなどが話し合われました。これらは理事会の承認を得て計画案として公表いたします。

研修委員会は「過去の支部時代の蓄積も少なく、フリーハンドの出発となります。新たな研修事業のあり方、研修内容について一緒に考えてくれる有志の参加を求めています。」としました。新年度、さらにメンバーが増え、活発な活動が展開されることを期待します。

## 事業開発委員会



### 事業開発委員長 野水敏勝

春分も過ぎ、日中の時間もすっかり長くなり春本番を心待ちにしているこの頃ですが、皆様いかがお過ごしですか。

事業開発委員会では昨年4月に新しい組織体制になってから6回の委員会を開きました。新メンバーの参加と協力のもと、その役割と活動内容を協議し実施して参りました。また都度、理事会に

報告を行い、新規案件や事業計画について諮りながら進めてまいりました。

大きな目的としては、当協会としての使命と役割を認識して公的セクターや地元金融機関等に診断士協会をアピールするとともに会員診断士の活躍の場を拓げ、地元中小企業等の発展に貢献することです。これには広報委員会との緊密な連携が必要と考えています。

具体的には、新潟市のほんぽーと「企業・経営相談会」(継続事業)、新発田市の「女性のための起業・創業支援セミナー」、新発田市の松塚漁港の「水産物直売場整備調査コンサルティング事業」、三条市の「個別経営相談あきんど」(いずれも新規)が挙げられますが、まだまだ浸透しているとは言えない状況です。とりわけ企業内診断士のポイント付与に係わる事業については研修委員会とも連携して企画を考えたいと思います。

また昨年11月には当協会のPRパンフレットを作成し、会員各位にお配りしたほか、県内の主要な公的機関や金融機関に配布しました。これらの機関に当協会がどんなお役に立てるのか、会員診断士の活躍の場との整合性についても、大局的な視点から前向きに進めていく必要があると考えています。それには委員の皆さんの参加と意見集約、そして実行が何より大切であることは論を待ちません。新しい年度を迎えるにあたり、当協会の一層の発展に向け、会員各位のご協力を切にお願いいたします。

## 広報委員会



広報委員長 佐野盛也

まずは、この1年間、広報委員会活動にご協力頂きまして本当にありがとうございました。

新組織のもと広報委員会の活動方針に、

- ◆「診断士の認知度向上を図る」  
→診断士のブランド化、外部評価の向上
- ◆「診断士の役に立つ情報や場の提供」  
→独立診断士だけでなく、企業内診断士に対しても役に立つ情報や場の提供
- ◆「会員増強」  
→上記2つに取り組むことによる結果としての会員増強

を掲げ、取り組んで参りました。

主な活動内容として、

- ◆診断士のブランド化、外部評価の向上  
企画段階ではありますが、「講師名簿の作成」など、魅力的な案がいくつか挙がってきております。
- ◆会員向け広報誌の発行  
新組織の発足に合わせて名称を変え、「診断士にいがたSOUP LETTER」として発行することになりました。内容に関しても、旬のテーマを記事に盛り込むなど興味深く、役に立つ内容になったと思います。
- ◆HPの運用  
情報を刷新すること、更新手続きを誰でも簡単に行えることを目的にリニューアルを実施致しま

した。今回のリニューアルにより、簡易に更新できるインフラが整ったことから、今後は運用＝情報発信に力を入れたいと考えております。

いずれも委員会メンバーの頑張りと会員の皆様のご協力のおかげと感謝致しております。

まだまだ、至らぬ点があるかもしれませんが、今後も活動方針の実現を目指し活動していきたいと考えております。

今後とも、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

## 会員増強特別委員会



会員増強特別委員長 平塚幸雄

会員増強特別委員会では、会員及び非会員の意見や要望をお聞きして、参加しやすい協会に向けた意見や要望をお聞きする場と会員・非会員相互の意見交換とコミュニケーションの場づくりの活動を進めてきました。

今年度第一回目の会員・非会員交流会を10月13日（土）に東北電力ビッグスワンにて初回ともありキックオフの場所にふさわしい場所にて開催しました。その後、第二回目を12月8日（土）新潟市中央図書館、第三回目を3月16日（土）長岡まちなかキャンパスにて開催しました。

交流会では、参加された新潟県内の診断士の方々から協会への率直な要望や意見をお聞きしたり、お互いの情報交流をして頂くといった自由意

## 研究会活動報告

### 企業再生支援研究会 活動報告

田中裕輔

年3回の研究会開催を目指しておりましたが、今年度は2回しか開催できませんでした。申し訳ありません。

今年度の当研究会の発表は以下のとおりです。

(第1回目) 平成24年7月21日

長谷川 克一 先生

「不況下での労務管理のポイント」

上村 修 先生

「ポスト金融円滑化法～診断士と

再生支援協議会が果たす役割～」

(第2回目) 平成24年11月3日

岡田 正博 先生

「会社倒産事例」

川崎 一夫 先生

「自費出版で、在庫なしで880部を売り切った方法」

様々な分野でご活躍の先生方の専門分野や活動について発表して頂きました。また、多くの会員の方々にご参加いただきました。

見交換方式にて会を進めています。今年度開催した中で協会に対する意見・要望として、「参加しやすい研究会を増やして協会自体を活性化して行って欲しい」、「診断士登録に必用な実務従事ポイントが取得できる仕組みを提供して欲しい」などの意見・要望が出てきました。その中で診断士実務従事ポイント取得への仕組みに関しては、理事会でも話題となり、平成25年度以降となりますが、何らかの仕組みを構築してく方向でまとまりました。このような自由意見を集約して協会としての役割を明確にすることと、協会会員になったメリットを享受できる仕組みを作っていくことに微力ですが貢献できる委員会として今後も活動していきますので、来年度以降の交流会への参加をお待ちしています。



追記となりますが、交流会後は懇親会もあわせて開催しています。交流会では硬くなっていた参加者も懇親会では和気あいあいとした雰囲気（お酒も入っていることもあります）で交流会以上に交流とコミュニケーションの構築に役立っています。そのような分け隔ての無い会ですので、皆様の参加をお待ちしています。



厳しい経営状態の企業も多い中で、支援する側である私たちが知っておくべきこと、役立つ情報

が多々ありました。

多くの方々が参加すればするほど、様々な知識と知恵が集まります。今後とも企業再生支援研究会をよろしく願いいたします。

## 農業経営研究会に参加して

### 金井信雄

農業経営研究会は私にとって、農業経営をテーマとして診断士に必要な知識を多面的に学ぶことのできる場です。今年度に行われた研究会の内容は①6次産業化、農商工連携、農業ファンドなどの制度や政策、②花き生産、直売所運営、農産物マーケティングなどの農業経営の実態に関するもの、③診断ニュースの記事から取り上げたテーマ、④多様な参加メンバーの専門領域に関する情報共有等に分けることができます。毎回、これらの中からいくつかのテーマを選んで武藤先生を中心に研究会が開催されています。過去には、農園を訪問してトウモロコシの収穫体験をした後、経営者の話を聞くなど楽しい研究会もありました。

私は診断士登録した平成16年に農業経営研究会に参加して以来、多くのことを学ぶとともにキャリア面でも良い意味で大きな影響を受けてきました。参加した当時は、農業関係書籍の読書会や実際に農業法人を訪問して経営診断を行いその結果を報告書にまとめるなどの活動をしていました。研究会がきっかけになり農業経営診断に継続的に携わる経験をしたことが、自分の大きな財産になっています。現在は農業者に対する支援だけでなく、商工業者からの農商工連携や農業参入に関する相談対応なども行っています。

農業だけでも非常に奥の深い分野であり、研究すべきテーマは数多くあります。また、農業は政策など外部環境に大きく影響されてきた経緯があり、近年は担い手の高齢化等により法人化や集落営農への移行など大きな構造的変化を迫られています。さらに、TPP交渉参加問題もあって農業

に対する注目度が非常に高くなっています。

一方では、先輩方のご努力により農業分野における中小企業診断士に対する認知度と期待は年々高くなっていることを実感します。これらの期待に応えられる人材になるために、今後も研究会への参加を通して専門性を高めるとともに、診断士としての能力向上に努めていく所存です。

## BCPとBCM

### (事業継続マネジメント)

#### マネジメントシステム最適化研究会

#### 内山晴夫 大橋克己 渡邊清史

当研究会では、本年、事業継続マネジメントに取り組んでいます。先のSOUP LETTERの後、新潟県産業労働観光部主催の4回のBCMワークショップへ参加しました。残念ながら日程の都合で参加できない人もいて、2名の参加にとどまりましたが、参加された方とメールで会合を行いましたので、会員の皆さんに報告いたします。

☆ご参加お疲れ様でした。研究会ではISO22301を扱いましたが、ワークショップで新たな発見がありましたか。(W)

☆そうですね。私は細坪さんのBCPやBCMが東日本大震災から2年が経ち、従来の災害復興中心の事業継続計画に新たに海外戦略を取り入れ成長戦略を加えたことに興味が湧きました。つまり、従来のBCPやBCMは、インシデントに対し、ゴーイングコンサーンを前提とする事業継続計画であり、事業所別、部門別、製品別などの管理会計的発想で、選択と集中を行うという事業計画づくり策だという認識でした。そこに、うまく海外市場政策を巻き込んだ成長戦略を立てたものだという印象でした。(U)

☆私はISO22301の規格要求事項では感じることはできなかった、生き残りのための具体的な企業活動を考える機会になりました。防災対応としての安否確認と事業継続は別に考えることが



大切に、そのため、人命担当と事業継続の担当者を分ける必要があること。BCPでは、お客様の要求にどのように対応するのか判断できる仕組みづくり、判断のためのルールと基準を作ることが求められていること。また、中小企業はどうやって儲けるのかという経営革新、成長戦略と連動したBCPを、お金をかけないで構築する必要があること、そのための手段の一つに業務提携やM&Aがあることなどを学びました。(O)

☆それはよいご経験となったと思います。それでは今後の研究テーマへのご提案をどうぞ。(W)

☆一番の問題はマネジメント計画が絵に描いた餅でなく、本当に魂の入った事業継続計画かどうかだと思います。これが研究テーマになるのではないかと思います。つまり、今後とも、当県の中小企業や農業が不採算事業を縮小・撤退し成長性をいかに確保し、自社の収益構造をどのように変革するかが課題です。また、中小企業や農業でもM&Aや事業撤退、業種・業態転換、多角化、共同化等も検討する必要があるという現実を今後とも診断士の「お互い様ネットワーク」の中で研究しあうことが大切だと思います。(U)

☆BCMという考え方や手法を日常のコンサル業務の中でどのように活用していくか。特に地域の個々の中小企業が今後も生き残り続けるために必要な能力、手段は何か。それを見つける手法としてBIA(ビジネスインパクト分析)の考え方と具体的な業務プロセスの整理の仕方。リスク分析との違いを理解し、「どの得意先の」、「どの業務に」と絞り込んで、事業の優先順位と業務の優先順位を確定する。そうすると、「いつまでに」という時間軸が必要になり、従って、「どうやって」という戦略が必要になる。そこから、会社が生き残るための戦略として具体的にどのような方法を組み合わせるのかという事業継続戦略案の洗い出しが行われる。そこで地域の中小企業が現在の事業環境の中で描くことのできる成長戦略の一つとして、

どのように海外進出やグローバル化へ対応していくのが課題だと思います。

また、BCPで用いるBIAは成長戦略を考える道具としても活用できます。事業再生のためにはBCPと成長戦略が必要なので、Uさんの「お互い様ネットワーク」の一環として、研究会のコラボはどうでしょうか。(O)

☆貴重なご意見、大変ありがとうございました。次年度も参加される方々の要望に沿って運営して参りますので、よろしくお願ひします。(W)

## クリップボード

### 総会

開催日：平成25年5月25日(土)

開催場所：新潟グランドホテル

## 編集後記

### 広報委員会 内部広報担当 土田正憲

会員の皆様のご協力により、「診断士にいがたS O U P L E T T E R」の第3号を発行することができました。誠にありがとうございます。

今回は今年度の最終号ということから協会の活動報告を主として構成いたしました。またこのほか、「中小企業金融円滑化法の終了」をテーマとした特別号を併せて発行いたしました。

次年度においても中小企業診断士を取り巻く動向をテーマとして取りあげるなど、会員の皆様のお役に立てるよう取り組んでまいります。

なお、皆様からのご要望やご意見はいつでも受け付けておりますので、お気軽にご連絡いただければ幸いです。